

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
都市交通研究室

1. はじめに

O:「先生、研究室紹介の原稿を依頼されました！」

H:「20年ぶりだな。まあ適当に書いてくれ。」

T:「そんなこと言われても困りますよ。」

H:「じゃあ、まずは研究室の歴史を教えてやるか。我が研究室は・・・」

2. 研究室の構成

当研究室は、今年40周年を迎えた工学部都市工学科設立時に、昭和39年より都市計画第5講座として誕生し、これまで井上孝先生、新谷洋二先生、太田勝敏先生が、歴代の教授を務められました。平成19年5月現在の構成員は、原田昇教授、大森宣暁講師、高見淳史助教、田中敦子秘書、青野貞康研究員、焦朋朋研究員(中国出身)、大学院博士課程3名(うち留学生2名)、修士課程6名、4年生5名の計20名です。原田教授が1999年から6年間、新領域創成科学研究科環境学専攻社会文化環境学コース(現在、社会文化環境学専攻)にも所属していたため、博士課程の大学院生のうち2名は社会文化環境学専攻の所属です。当研究室は、若手方の研究者として、豊田都市交通研究所の橋本成仁研究員および板谷和也研究員、慶応大学の古谷知之准教授、日本学術振興会の円山琢也海外特別研究員など、都市交通計画の将来を担う逸材を多数輩出しています。また、これまでアジアを中心として多数の留学生を受け入れており、学位取得後は、帰国して母国の第一線で活躍している人材もとても多くみられます。

3. 研究内容の紹介

当研究室は、設立以降、パーソントリップ調査、都市圏交通計画、交通システム分析、交通需要管理(TDM)等に関する研究・実務に積極的に携わってきました。都市住民の生活を支える交通という立場を強く意識し、人・もの・情報の移動を対象に幅広い研究活動を行っています。最近、特に力を入れている研究テーマは以下の3つに整理されます。

① 交通計画の新しい潮流「交通まちづくり」

「交通まちづくり」は、単に交通問題の解決を目的とするものではなく、まちづくりの目標に貢献するための新しい交通計画です。この新潮流をリードする研究室として、先進的な計画・制度事例の収集、概念の体系化、要素技術の開発、実践への展開を進めています。以下の②、③のテーマの多くも、交通まちづくりの進展に寄与するものと考えられます。具体的な研究内容を以下に挙げてみます。

- ・ 都市の再生を支える交通計画：都心活性化、コンパクトシティ、観光まちづくり、バリアフリーの交通まちづくりなど
- ・ 地域に貢献する交通戦略：計画の策定と評価、財源配分、モニタリングなどの制度とプロセス、その運用実態など
- ・ 土地利用と交通の統合的計画のしくみと実際：英国・イングランド、米国・オレゴン州ポートランド都市圏などの土地利用計画・交通計画

② 人の交通行動の理解

人の交通行動の意思決定メカニズムを理解することは、交通施策を適切に組み立てる上で重要です。従来、交通行動の調査手法やモデル化技術の開発と適用を通じて、このテーマに取り組んできました。また、“交通は活動の派生需要である”との考え方に基づき、人のアクティビティに関する研究も活発に行っています。具体的な研究内容を以下に挙げてみます。

- ・ 従来調査票記入形式調査を補完する行動データ収集手法の開発と適用：GPSによる行動軌跡調査、Web-GISによる選好意識調査など
- ・ 活動・交通行動分析のためのゲーミングシミュレーションツールの開発と適用：Simulation Model for Activity Planning (SMAP)など
- ・ 情報通信技術(ICT)と交通：テレコミュニケーションと活動・交通行動分析、駅・バス停での待ち行動、移動中のアクティビティなど

③ 都市と交通のあるべき姿の追求

都市の問題には、交通のことを抜きにしては解けないものが多々あります。都市を専門に研究・教育する専攻に籍を置く研究室として、環境問題、中心市街地活性化、社会的排除問題などの今日的な課題に対し、

都市と交通システムがどうあるべきかを定量的分析を踏まえて検討しています。そこに交通が関連する限り、我々が対象とするのはいわゆる「交通」施策にとどまりません。

- ・ 土地利用施策・交通施策による自動車利用抑制効果の評価：大型店の開発コントロール、バス路線網の再編、TDM、モビリティ・マネジメントなど
- ・ 社会的排除の実態把握と対応：公共交通による時間空間アクセシビリティ概念に基づいた検討

その他、東京大学の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻が共同で進めている「21世紀COE都市空間の持続再生学の創出」にも積極的に参画し、地方都市の再生や、持続可能な交通システムをテーマに、アジア諸国の多数の大学との共同研究も行っています。また、本郷キャンパスおよび柏キャンパス内の交通計画策定にも携わっています。

O：「最近、夜のまちづくりにも興味があるのですが・・・」

H：「うん、非常に重要なテーマだ！ 安心して飲んで歌える店が基本だ！」

4. 研究室の活動

伝統的に、最新の海外動向や外部のシンポジウムの報告など情報交換の場である「定例会」、大学院生の研究発表・指導の場である「研究会」、主に海外文献の輪読を行う「輪講」、卒業論文の指導の場である「卒論ミーティング」を、それぞれ週一回行っています。最近では、イブニングセミナーと称して研究室OBの方々をお呼びし、社会に出てから具体的にどのように都市交通計画に携わっているかなどのお話を伺う機会も設けています。

研究室の卒業生は、都市工学科独特の自由な雰囲気のもとで磨かれた都市を見るセンスを生かし、都市という多様な価値観を有する人々から構成される複雑なシステムを計画・マネジメントする、リーダー的な立場として活躍することを期待されています。よって、研究室の教育方針としては、自ら都市の課題を発見し、それを多様な視点から総合的に検討し、柔軟に解決していく力を身につけた、優秀な人材を育成することを目指しています。

最近の一番の話題は、何と言っても30数年間研究室の秘書としてご尽力頂いた田中敦子女史が3月に定年を迎えられたことです。研究室在籍最長年数の実績もあり、4月以降も新秘書としてご尽力頂いています。

5. おわりに

H：「4月から専攻長だし、10月から社会人大学院^{注1}も始まって、皆忙しくなるな。ガハハハ！」

T：「・・・」

H：「しかし、こんな内容で大丈夫か？」

O：「第一回の研究室紹介^{注2}に、『何よりも肩のこらない小欄に・・・』とありましたので、実は趣旨に合っているのではないかと。」

H：「そうか。じゃ、いいか。ガハハハ！」

ご関心の方は、都市交通研究室ホームページ (<http://www.ut.t.u.tokyo.ac.jp/>) を是非ご覧下さい。

注1：10月より、社会人大学院として、都市工学専攻都市持続再生学コース（東大まちづくり大学院）が開設されます。

注2：研究室紹介 東京大学生産技術研究所第5部 越研究室、交通工学, Vol.21, No.1, pp.36-37, 1986.



写真1 研究室集合写真
(2007年3月21日、追い出しコンパ時撮影)

(文責：大森宣暁、高見淳史)